



氷川境内最盛期の彼岸花

# 内谷 2 丁目自治会だより

発行責任者 高野橋 章

## 内谷地区体育祭で 2 丁目がんばる (・v・)あそび

11月3日内谷中学校で第31回内谷地区自治協力会の体育祭が開催されました。私たち2丁目の事前役割は賞品購入でした。参加者に喜んでもらえるような賞品を調査し35万円程皆の協力で準備しました。

競技では、自治会対抗で玉入れ・女子リレーで優勝、綱引き・男子リレーが4・5位と大健闘し総合で準優勝となりました。秋の好日110個の弁当を用意し残っ

たのはわずか、班長やふらっとサロン顔ぶれの手助けもあり、多くの家族が参加し交流を図りました。

昭和57年に中学校が開校。内谷地区全体が心から祝し、その喜びを第1回体育祭として同年11月3日に開催、今年まで切れ目なく続いてきたそうです。ひとつの行事にも地域の発展・歴史そしてその時々喜び、生活が反映されていることを教わりました。



玉入れ



昼食



優勝の女子リレー

## 西小まつり児童・保護者でにぎわう

11月17日(土)西浦和小学校で「西小まつり」が開かれ、青少年育成西浦和地区会を構成する自治会も運営の手伝いをしました。各教室でのゲーム、体育館でのバザー・イベント、焼きそば等多数の模擬店が開かれ、保護者同伴の子供たちで校内が大変にぎわいました。



焼き鳥



# 秋は防災の季節

## 今年も防災訓練を実施しました

10月14日(日)自治会館隣児童公園で南消防署、西浦和消防団の指導のもと内谷1丁目～3丁目、曲本3丁目の各自治会共同の訓練を開催しました。

内谷2丁目は参加者58人で最も多く東日本大震災や南海大地震予想の報道もあり、熱心に質問をし、真剣に訓練に取り組んでおられました。消火班では、携帯電話からの通報訓練でこの地域からの119番通報は、戸田市消防署に繋がる場合もあるので、火災や事故の現場の住所や目標となる建物の東西南北のどちら側にあるかなどをできるだけ正確に伝えることが大事であると知りました。また、自分の携帯電話番号も聞かれるので覚えておかななくてはと思いました。大声で「火事だ！」

と周囲に知らせ、人を集めてもらうなど指名して協力を依頼することが大事だとのことでした。

AEDの訓練でも、まず、協力を求め、手分けして119番通報AEDを持ってきてもらうこと、AEDの設置されている市役所、コンビニ、公民館などを日ごろから確認して覚えておくことが大切とのことでした。

自治会館にはふらっとサロン等で高齢者の方も集まりますから、レンタルでもよいので会館にAEDの設置を検討すると良いと思いました。

煙体験では、きき手の手のひらや上腕、ハンカチやタオルで口鼻をおさえ、もう片方の手で壁などを伝わって逃げる訓練をしました。火災では化学物質や二酸化炭

素の煙を吸って倒れて死亡することが多いとのこと。今回の煙は、無害の甘いにおいでしたが、煙のテントを出る間にホットしておいを吸ってしまいゾッとしました。火災や事故を起こさない心がけが一番ですが、

万が一を想定した訓練や心がけも大事だと思いました。地域から選出された西浦和消防団の方々にもお世話になります。  
(14班 長山孝子さんに記事を依頼しました)



## 西小避難場所運営訓練おこないました

私達の災害時避難所は西浦和小学校です。11月25日(日)午後避難所開設を想定した訓練を行いました。

内谷・曲本・田島・四谷の西小通学区を中心に139人が参加した初めての訓練でした。

当自治会からは役員・班長・専門有資格者の看護師・ヘルパーそれに食糧の提供を想定して女性など14人参加しました。

訓練では全員で正門付近に貯蔵されている100トンの飲料水の給水方法、体育館での救護訓練を受けたほか、総務班・物資班など班ごと

で1時間程「班の役割」など話し合いました。

緊急時には避難のことだけではなく、この2丁目居住地で要介護者の支援、小さな子どもたちの安全確保・避難助け合いなど近隣で協力して行かなければなりません。

阪神淡路大震災では、要救助者の77%を救出したのは近隣住民でした。地域のつながりである顔の見える自治会活動がその基礎となります。来年総会までこのような体制を作りたいと相談していますが中々良い計画が作れません。意見募集です。



班ごとの研修



給水訓練



救護訓練

## 被災地いわき市を視察しました

10月23日(火)に南区自主防災組織連絡協議会の研修会が被災地のいわき市「いわき・ら・ら・ミュウ」で行われ、自治会長が参加しました。市職員から被災状況や復興状況の説明を受け、風評被害に困っていることを訴えられました。被災地への支援には「何より風評被害への払しょく」と、被災地特産品の購入をとのことでした。

いわき市の被害は、関連死を含めた死者430人、建物被害9万棟超で、市街地を襲った津波の跡にセイダカアワダチソウが群生している中に、再建された家屋が散見される未だ惨憺たる状況でした。私たちへのアドバイスは、「明日は我が身に災害がふりかかるかも知れない」という気持ちを忘れないででした。

また、11月4日(月)市主催の防災ボランティアコーディネーター講座があり1日勉強してきました。

市では防災政策の普及に特段の力を入れていません。(自治会長)



右：がれきの校庭と校舎